竹千代賞

シャイな日本人

徳澄　要

「日本人は全体的に引っ込み思案が多い」

これは今まで私が多くの本などで見てきた説であり、且つ私が世界ジャンボリーに行って強く実感したことの一つです。ダンスパーティに行っても多くの日本人が後ろの方でアリーナのアーティストが奏でるロックをじっと聴いているし、道端で外国人にスカウトグッズの交換を持ちかけられても基本的に「Sorry.I don't have now.」や「I have only this one.」などの短い会話だけで終わらせようとする人が多いような様子が見受けられました。大きなイベントの時でも、他の国の人たちは肩を組んだり頭を揺らしたりして盛り上がる人が多いのに対し、日本人を見るとそういうことをする人は全体的に少なかったのです。一体なぜ、日本人はここまで外国人と接することに消極的なのでしょうか？

理由としてはいくつか考えられますが、まず一つ目に、「日本人の同胞意識」が挙げられることは間違いないでしょう。

まず、「外国人を異質な存在として見すぎている」ということは必ずあると言っていいでしょう。

日本という国は世界地図の端っこにある極東の島国です。そのせいか日本人は、南蛮人渡来まで東アジア以外の国とは全く交流せず、江戸時代の約260年のうちの殆どの期間を外国人との交流を絶って生活し、開国の時には「攘夷」を主張する勢力が力をつけ、明治維新になると欧化政策で外国を徹底的に取り入れようとしたかと思えば、その60年後には世界中を敵に回して太平洋で大規模な戦争を戦っていました。つまり、元々は島国という外国人との交流が薄くなる環境に影響された結果外国勢力を異質な存在として見てしまう民族でした。このような時代背景から、日本人は無意識のうちに外国人を「同胞ではない存在」として強く認識するようになってしまったのではないでしょうか。

二つ目には「英語の能力が平均的に低いこと」があると思います。

英語は世界で最も話している人が多い（統計学的には中国語が最も話者が多いとされていますが、方言による差が他の言語と比べて大きく、完全な一つの言語として考えるのは無理があるという意見もあるためここでは例外とします）実質的な世界共通言語であり、ジャンボリーでも基本的な会話に用いられる言語として交流の際には双方の国の母国語に関係なく最も英語が使われていました。日本の学校教育でも、殆どの学校では外国語の授業でまず教えるのは英語です。そんな今やインターナショナルな場で不可欠とされている英語ですが、世界的に見て日本人の英語能力は平均的に低いと言われていることをご存知でしょうか？

Education Firstという語学学校が行った世界各国の英語能力調査によれば、日本と同じく英語圏の国ではないドイツの英語能力指数が調査対象88ヶ国中10位の「非常に高い」に分類されているにも関わらず、日本の順位は49位で「低い」に分類されており、この順位はG8加盟国のうち最も低い順位です。これについて考えられる原因としては、日本が諸外国のように多くの人種によって構成されていないことが大きいと言えるでしょう。先ほどのドイツを例に取ると、ユーラシア大陸に位置し多くの国と地続きであるドイツは、人口のうち約20％が移民や難民であり「第2の人種のサラダボウル」とまで言われているのに対し、島国である日本の場合は全人口のうち移民や難民は約2％です。このことから多くの日本人は、日本にいる限り英語は不必要だと判

断し、積極的に勉強しないのではないでしょうか。

また、日本が国民の98％を日本民族とする単一民族国家であるというような事実も、先述したような日本人の同胞意識を支えていると言えるでしょう。

この文章を読んで、

「いや、日本人の中にも交流に積極的な人はいるだろう。」

と思う方もおられると思います。もちろん、右に述べたような傾向とは外れている日本人も多く存在しているのは事実です。しかしそのような人々は私のように

「せっかくの機会だし交流を積極的にして楽しもう！　楽しんだモン勝ちだ！」

と強く意識しているか、長期間外国に滞在していた経験を持つか、幾度の国際交流の場に赴き外国人との交流に対する恐怖を克服しているか、英語の能力にかなり長けているかのどれかではないでしょうか。実際に世界ジャンボリーでも外国スカウトとよく交流していたのは交流の場数をこなしたベテランスカウトか、英語が出来るスカウトか、元々他人と話す事が好きなスカウトばかりで、英語が未熟だったり交流の場に慣れていなかったりするスカウトはあまり外国スカウトと会話をせずにほとんどのチャンスを日本人同士で固まって逃してしまっていたような印象を受けました。

では、日本人が外国人との交流を恐れず会話が出来るようにする為にはどうしたら良いのでしょうか？

前述したような問題を抱える日本人の問題点を纏めると、「外国人を異質な存在として見すぎている」と言えます。これに対するもっとも単純な方法として、「勇気を出す」というのがあります。文を一見するとかなり単純で幼稚な解決案に見えて、実は外国人と話す上ではものすごく重要な事であり、必死に英語を勉強するよりも手っ取り早く且つ有効な方法です。日本人の多くは外国人と話している途中に自分の英語に齟齬が出たり、英語が正確に聞き取れなかったりする事を恐れる傾向にあります。けれども外国人の多くは相手が英語を聞き取れなくても「まあ日本は英語圏じゃないし仕方がないな」と納得するか、むしろ「俺の伝え方が悪かっ

たのかな」と思い、より分かりやすく噛み砕いて説明してくれる事がほとんどです。英語が分からなくても、頑張ってボディランゲージで伝えようとするか、最終手段としてスマートフォンの翻訳アプリを使っても良いでしょう。日本人の中の

「外国人は恐ろしい」

だとか、

「外国人との交流は日本人同士との会話とは訳が違うだろう。」

などの意識が変われば、国際交流など恐るるに足らずと言えます。

一年後に東京オリンピック・パラリンピックを控え、さらなる国際交流スキルが日本人に求められている昨今、我々日本人がすべきことは、国際交流の場に立っても恐れない意識改善をしていくことです。外国人を東京に招き入れておいて、現地の日本人に道を聞こうとしても、会話を恐れて「I can't speak English,sorry.」とだけ言って逃げるような人々ばかりでは日本という国の沽券にかかわります。

日本人の民族性である「謙虚さ」や「慎ましさ」は残念なことにインターナショナルな場では障害になりかねません。我々日本人の最終的な意識改善によって、日本が将来、真の「おもてなし」が出来る事を願っています。